上越・巻機山
2011 年 4 月 30(土)　晴れ　一時雨

メンバー：Ｌ志満、安藤、柳下、神戸（記）

　子供が生まれる前に最後に山に行ったのは 2010 年１月の西大巓の山スキー以来で、久々のため体力にも不安があり、志満さんに誘ってもらい日帰りならと参加させてもらった。まだ子供が 7 か月なので、それでも山に行けるのは早い方で、周りのお母さん達は自分一人の時間など作れないと聞く中、子供の面倒を見てくれた奥平さんには感謝してます。

巻機山というと１月、２月に行けば悪天候に見舞われることが多く、４月になると雪が少なくブッシュに苦労した話などを聞き、あまり行きたいと思った事がなかった。29 日の夜に厚木を出発し順調に登山口付近に到着。登山口の入口が暗くてわかりづらかったが、よく見ると登山案内の大きな看板がある。駐車場までの細い道を進んでいくと雪がだいぶ残っていて、今年は残雪が多く条件が良さそうだとみんな喜ぶ。駐車場にはテントが 4～5 張りある。少し手前にトイレがあったが冬期は使えなくなっている。乾杯だけして、すぐに就寝。

翌日は 7 時前に他のパーティと前後して出発。歩きも 2 パーティ位いる。駐車場のすぐ上から雪がありスキーを担ぐ事なくシールで歩き始める。天気はうす曇りで歩き始めるとすぐに暑くなってくる。しばらく歩くと井戸の壁らしき斜面が出てきて、安藤さんと柳下さんはアイゼンに履き替える。私は履き替えるのに時間がかかるからと、そのまま登り続けるが斜面がきつくなって安藤さんたちに追い越され、やはり急斜面はアイゼンの方が早いと実感。でももうすぐ急斜面も終わるので、履き替えるのに時間もかかるし、スキー板のまま登り、だいぶ遅れてなんとか追いつき休憩する。またしばらく樹林の中を歩き続けると、だんだんと木がまばらになり視界がひらけてくる。日が射して明るくなり、志満さんに後ろを見てごらんと言われて振り向くと、遠くの山なみまで見渡せて、久しぶりの素晴らしい景色に何とも言えない爽快感をあじわう。山頂に続く稜線が見え、稜線直下の急斜面は多くの人がアイゼンに履き替えて夏道を登っている。柳下さんと私はアイゼンに履き替え、志満さんと安藤さんは、夏道の右側の斜面をトラバースして裏側に回りこみシール登行する事になった。アイゼンを付ける時にスキー靴にサイズが合っていなくて柳下さんを待たせてしまう。準備不足

ですみません。稜線に出るとだいぶ下に志満さんが見えアイゼンで歩いている。安藤さんはスキーのまま先に登って来て事情を聞くと、トラバース中に志満さんが滑り落ちてしまい登り返して時間がかかったそうで、怪我をしなくて良かったとホッとする。休憩後、雨が少し降りだすが暫くして止み、ニセ巻機のピークに近づくとまだ離れた所に山頂がみえる。
40 分ほどの登りでようやく山頂へ続く稜線に出る。急に雨が降り出し風も飛ばされそうな位強くなるが、稜線が広いので、なんとか山頂付近まで辿り着くが休む状態ではなく、シールが飛ばされないように二人組で急いで剥がし風のない所まで滑る。少し下ると風と雨はピタリと止み、登って来た尾根よりも米子沢側の尾根を滑ってニセ巻機に登り返した。行きに夏道を歩いた左の斜面を滑って下り、トラバースが心配だったがなんとか通過でき樹林帯に入るまでは快適に滑る事ができた。井戸の壁はブッシュが出てる上に急斜面なのでターンができず、かなり苦労して横滑りで下るが、志満さんと安藤さんはスイスイ下りて行った。最後の斜面は登って来た尾根よりも右の沢の方に下りると木が少なめで滑りやすかった。

子供は生まれて見ればかわいいけれど、登山などが好きな人にとっては家にいる事が多くなり、自分一人で自由気ままに行動できない事が少しつらく感じました。２週間位前に久しぶりのゲレンデスキーに行って、山スキーは来年行ければと思っていたのに、思いがけず参加できて本当に良かったです。たまに山に行けると気分転換になり育児も楽しめそうです。

コースタイム：
10/11(日)
6:45 桜坂駐車場→8:20(1100m)→11:50 ニセ巻機 1861m→12:40 山頂 1967m→15:00 駐車場

地形図：三国峠、水上